

創立 40周年記念誌

40th

宇都宮大学

- 工学部建設学科建築学コース
- 地域デザイン科学部建築都市デザイン学科
- 大学院工学研究科地球環境デザイン学専攻

School of Regional Design Department of Architecture and Urban Design
2017

2008

1998

1988

1978

40th 1.はじめに

宇都宮大学において建築の学びが行われはじめてから40年になります。現在の工学部建設学科建築学コースは、1978年に創設された工学部建築工学科をその起源とし、1988年の改組により現在のものとなりました。2016年には、宇都宮大学の5番目の学部である地域デザイン科学部が創設され、建設学科建築学コースは、地域デザイン科学部を構成する3つの学科の中の1つの学科である建築都市デザイン学科へと現在移行しつつあります。

一方、大学院としては、1982年に工学研究科建築工学専攻が設置され、1992年に工学研究科建設工学専攻への改組を経て、2008年から現在の工学研究科地球環境デザイン学専攻建築環境デザイン学コースにて博士前期課程の学びが行われています。

これまでに学部を卒業した学生は、36期総計1456名を数え、1期生は今年58歳を迎えます。さらに、修士課程ないし博士前期課程を修了した学生は32期542名、建築学コース教員の指導による博士号取得者は111名(2018年3月末現在)に上ります。

前述のように、40周年を迎える現在、工学部建設学科建築学コースは地域デザイン科学部建築都市デザイン学科へ移行する真っ最中にあります。2019年の春には工学部建設学科建築学コースから最後の卒業生をお見送りし、工学部建設学科建築学コースはその幕を閉じ、41年間の歴史と蓄積を新しい学科に継承することになります。

工学部建設学科建築学コース、工学研究科地球環境デザイン学専攻建築環境デザイン学コース、並びに、地域デザイン科学部建築都市デザイン学科のこの10年間の歩みを記録として残すべく、40周年の記念誌をここに取まとめました。

宇都宮大学における40年間の建築の学びは、歴代学長、歴代工学部長、学部の関係教職員など多くの方々から頂きましたご指導、お力添えと暖かいご支援によるものです。また、卒業生・修了生のみならずと建築工学科創設以来の教職員のみならずの方々の日々の努力の賜です。関係するすべての方々にこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

宇都宮大学のこの10年間の建築の学びを取りまとめました本記録が、未来へと繋がる一助になれば幸いです。

平成30年3月31日

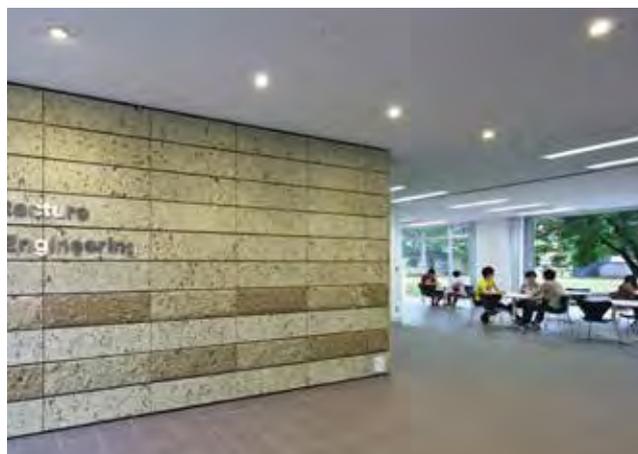
工学部建設学科建築学コース 主任
地域デザイン科学部建築都市デザイン学科 学科長

中島史郎

目次

1. はじめに	・・・ 3
2. 10年間の軌跡	・・・ 5
2-1. 学部・大学院の軌跡	・・・ 6
行事, 教員人事, 標準カリキュラム	
2-2. 研究教育活動の軌跡	・・・ 6
卒業設計・卒業論文の優秀者, 修士論文, 博士論文, 製図カリキュラム, 非常勤講師	
2-3. 学生活動の軌跡	・・・ 18
学生の受賞, 建築展	
2-4. 研究室活動の軌跡	・・・ 21
現行研究室体制, 建築構造研究室, 建築計画研究室, 建築環境研究室, 建築材料研究室, 建築再生安全研究室	
3. 学科改組について	・・・ 27

2. 10年間の軌跡



2-1. 学部・大学院の軌跡

	教員人事	教員受賞
2008年(平成20年)	小西敏正教授 退任(3月)→名誉教授	●中野達也 助教：日本鋼構造協会 鋼構造シンポジウム2008アカデミーセッション 優秀発表賞 (11月) 「接合金物を用いた梁端嵌合接合部の力学性状に関する実験的研究」
2009年(平成21年)	増田浩志准教授 昇任(4月)→教授 安森亮雄准教授 着任(4月) 佐藤栄治助教 着任(3月) 中村成春准教授 退任(3月)	
2010年(平成22年)	杉山央教授 着任(4月) 李榮蘭助教 着任(5月)	●岡建雄 教授、横尾昇剛 准教授、他：空気調和・衛生工学会 技術賞 (5月) 「栃木県庁舎の環境・設備計画と実施」 ●安森亮雄 准教授、他学生7名：第12回「まちの活性化・都市デザイン競技」宇都宮市長特別賞 (5月) 「みちのまち～3つの「道」がつくる「未知」のまち～」 ●入江康隆 准教授：国土交通大臣賞 (7月) 多年、建設工事紛争審査会委員として建設工事に関する紛争の解決に尽力した。
2011年(平成23年)		●佐藤由悟氏(構造OB)、中野達也 助教、増田浩志 教授：日本鋼構造協会 論文賞 (11月) 「梁端混用接合部における梁ウェブ高力ボルト接合部の力学性状に関する研究」
2012年(平成24年)	岡建雄教授 退任(3月)→名誉教授 榊田佳寛教授 退任(3月)→名誉教授 李榮蘭助教 退任(3月)	●李榮蘭 助教、唐沢智之氏(材研OB)、河野政典氏(材研OB)、榊田佳寛 教授：セメント協会 論文賞 (5月) 「仕上塗材の劣化を考慮したコンクリートの中性化進行に関する研究」 ●佐藤栄治 助教：日本建築学会奨励賞 (9月) 「歩行換算距離を用いた施設配置と住み替えによる地域生活継続可能性の検討—地形条件と高齢化を勘案した地域施設配置モデルその2—」
2013年(平成25年)	入江康隆准教授 昇任(4月)→教授 藤本郷史講師 着任(4月) 中野達也助教 昇任(6月)→准教授 入江康隆教授 退任(3月)→名誉教授	●安森亮雄(准教授)、佐原謙介(計画研OB)：2013年度グッドデザイン賞 (10月) 「震災がれき大谷石の再利用による休憩所」
2014年(平成26年)	郡公子准教授 昇任(4月)→教授 糸井川高穂助教 着任(4月) 中島昌一助教 着任(4月) 藤本郷史講師 昇任(1月)→准教授	●岡建雄 名誉教授、横尾昇剛 准教授：建築設備技術者協会 カーボンニュートラル大賞 (5月) 「栃木県庁舎における低環境負荷建築の実現」 ●安森亮雄(准教授)：日本建築士会連合会 まちづくり賞奨励賞 (10月) 「釜川の活用による宇都宮市中心部のまちづくり」 ●安森亮雄(准教授)、松浦達也(計画研OB)、中村周(計画研OB)、他6名：2014年度グッドデザイン賞(10月) 「宇都宮大学工学部8号館(建設学科棟)改修」
2015年(平成27年)	中島史郎教授 着任(4月) 古賀誉章准教授 着任(7月)	●安森亮雄 准教授、金知恩、勝又亮介(計画研OB)、横山伊織、福沢潤哉(計画研OB)他2名：2015年度グッドデザイン賞 (11月) 「かまがわ川床 桜まつり」 ●中野達也 准教授、長谷川隆、長嶺賢吾(構造OB)：日本鋼構造協会 論文賞 (11月) 「柱にSTKR材を用いた既存不適格鋼構造骨組の補強設計法(鋼板ならびに山形鋼による補強)」 ●糸井川 高穂 助教：人間-生活環境系学会 第39回人間-生活環境系シンポジウム大会発表賞 (11月) 「視覚情報による省エネルギー行動誘発」
2016年(平成28年)	佐藤栄治助教 昇任(4月)→准教授 全教職員 異動(4月) →地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科 大嶽陽徳助教 着任(4月) 三橋伸夫教授 退任(3月)→名誉教授	●安森亮雄 准教授、梶原良成教授(教育学部)他6名：2016年度グッドデザイン賞 (11月) 「地域産業とデザイン～宮の注染を拓く～」 ●郡公子 教授：空気調和・衛生工学会賞技術賞 (5月) 「建築物総合エネルギーシミュレーションツール「BEST」の開発」 ●郡公子 教授：空気調和・衛生工学会賞論文賞 (5月) 「熱負荷計算における非空調空間の仮定法に関する研究」
2017年(平成29年)	横尾昇剛准教授 昇任(4月)→教授 藤原紀沙助教 着任(3月) 中島昌一助教 退任(3月)	●糸井川高穂 助教：COOL CHOICE LEADERS AWARD コロンブスの卵賞(爆笑問題田中賞) (12月) 「思わず消しちゃう照明スイッチ」 ●杉山 央 教授：日本建築学会賞(論文) (4月) 「各種コンクリートの発熱・硬化性状の解明と調合設計・強度管理への応用に関する研究」 ●郡公子 教授：日本建築学会賞(技術) (4月) 「多角的評価のための建築熱シミュレーションエンジンの開発」

学生受賞	その他	
<ul style="list-style-type: none"> ●星名 彩 (研究室: 材料) : 日本建築工学会 優秀学生研究奨励賞 (3月) 「ベトナム世界遺産を事例とした文化財の維持管理保全と現代化する周辺領域の関わり方に対する調査研究」 ●土屋智之 (研究室: 構造) : 日本建築学会関東支部 若手優秀研究報告賞 (3月) 「山形鋼筋かい接合部の降伏耐力および最大耐力に関する研究」 ●岡田麻依 (研究室: 材料) : 日本建築工学会 優秀学生研究奨励賞 (3月) 「多様な建築表現に対する仕上系建築材料の技術選定手法に関する研究」 ●園部真理菜 (研究室: 材料) : 日本建築工学会 優秀学生研究奨励賞 (3月) 「建築内装仕上げ材料としての大谷石の吸放湿性能に関する研究」 	<p>博士課前期程が「建設学専攻」から「地球環境デザイン学専攻(建築環境デザイン学コース)」へ改組、「エネルギー環境工学専攻」「情報システム科学専攻」を併せ「学祭先端システム学専攻」を設置。博士後期課程を「システム創成工学専攻」へ改組</p>	<p>2008年(平成20年)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●保坂綱鎮 (研究室: 材料) : 日本建築学会 優秀修士論文賞 (9月) 「高炉スラック微粉末を使用したコンクリートの湿潤養生期間に関する研究」 ●高木峻一 (研究室: 構造) : 日本鋼構造協会 鋼構造シンポジウム2009 アカデミーセッション・優秀発表賞 (11月) 「前面T形両面隅肉溶接継目の最大耐力と破壊機構に関する研究」 		<p>2009年(平成21年)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●鎌田亮太 (研究室: 材料) : 日本建築工学会 優秀修士論文奨励賞 (3月) 「オフィスビルのアプローチにおける美的姿勢評価に関する研究」 ●NY MUOYU GUECH (研究室: 材料) : 日本建築工学会 優秀学生研究奨励賞 (3月) 「コンクリート耐久性の信頼性評価法に関する研究」 		<p>2010年(平成22年)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●齋藤良太 (研究室: 構造) : 日本建築学会 優秀卒業論文賞 (8月) 「STKR柱を用いた立体十字形架構の2方向載荷実験」 ●Le Hung Nguyen (計画) : 日本建築学会 関東支部研究発表会 若手優秀研究報告賞 (3月) 「ベトナム中部都市近郊農村における近年の住宅変化に関する研究—ダナン市フォンナム村を事例として—」 	<p>JABEE認定技術者プログラム 継続申請取り止め</p>	<p>2011年(平成23年)</p>
		<p>2012年(平成24年)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●工藤慈野 (研究室: 構造) : 日本鋼構造協会 鋼構造シンポジウム2013 アカデミーセッション・優秀発表賞 (11月) 「角形鋼管柱—H形鋼梁に取り付くブレース接合部の構面外曲げ剛性」 ●福川芽衣 (研究室: 計画) : 日本建築学会 優秀卒業論文賞 (8月) 「大谷石建物の外形と町並みの構成に関する研究—栃木県宇都宮市徳次郎町西根地区を事例として—」 	<p>8号館改修</p>	<p>2013年(平成25年)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●宗川陽祐 (研究室: 構造) : 2014年度日本建築学会大会 (近畿) 学術講演会 若手優秀発表 材料施工部門 (11月) 「25度狭開先溶接部におけるコラム角部溶接端部の応力・ひずみ状態とコラムの変形性能(鉄骨造建築物の安全性向上に資する新自動溶接技術の開発 その22)」 ●青山翔夏 (研究室: 環境) : 2014年度日本建築学会大会 (近畿) 学術講演会 若手優秀発表 環境工学部門 (11月) 「高性能窓システムをもつ建築の熱負荷解析 第1報 冷暖房設計気象日のAFWの効果」 ●松浦達也 (研究室: 計画) : 2014年度日本建築学会大会 (近畿) 学術講演会 若手優秀発表 都市計画部門 (11月) 「建物の連携と形成過程からみた大学キャンパスの空間構成」 ●三宅貴之 (研究室: 計画) : 2014年度日本建築学会大会 (近畿) 学術講演会 若手優秀発表 農村計画部門 (11月) 「医療施設のキャパシティに着目した医療サービス提供圏の分析」 ●工藤慈野 (研究室: 構造) : 2014年度 日本建築学会 関東支部研究発表会 若手優秀研究報告賞 (3月) 「角形鋼管柱とH形鋼梁に取り付くブレース接合部の構面外回転剛性に着目したブレース架構の載荷実験(その1実験計画)」 		<p>2014年(平成26年)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●三宅貴之 (研究室: 計画) : 公益財団法人日本科学協会 笹川科学研究助成 平成26年度笹川科学研究奨励賞 (4月) 「持続可能社会化に向けた医療サービス提供体制の再構築に関する研究 —利用者のアクセシビリティから見た医療サービス提供圏の評価—」 ●下ノ園慧 (研究室: 環境) : 2015年度日本建築学会大会(関東)学術講演会 若手優秀発表賞 環境工学部門(11月) 「シミュレーションツールBESTIによるオフィスの熱負荷・熱環境解析 第22報 オフィスへの自然換気導入の基本的な効果解析」 ●李 曉赫 (研究室: 材料) : 2015年度日本建築学会大会 (関東) 学術講演会 若手優秀発表賞 材料施工部門 (12月) 「湿潤養生条件がセメントの水和反応及びコンクリート強度に及ぼす影響」 ●倉成真也 (研究室: 構造) : 2015年度 第86回 日本建築学会関東支部研究発表会 若手優秀研究報告賞 (3月) 「スカラップ底の詳細を変化させた載荷実験 (先組みビルトH梁を用いた梁端接合部の破壊性状 その2)」 ●伊藤 駿 (研究室: 構造) : 2015年度 第86回 日本建築学会関東支部研究発表会 優秀研究報告集掲載 (3月) 「45度方向入力を受ける立体十字形架構に置ける各構成部材の弾塑性挙動」 ●小林 宏輝 (研究室: 構造) : 2015年度 第86回 日本建築学会関東支部研究発表会 優秀研究報告集掲載 (3月) 「ブレース接合部の構面外回転剛性とブレースの有効屈長の評価 その1 評価式の構築と解析モデルの簡略化」 		<p>2015年(平成27年)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●野崎 海, 須崎岳導 (研究室: 環境) : 大学コンソーシアムとちぎ第13回学生&企業研究発表会 藤井産業賞(緑をつないでいくこれからも賞)(11月) 「建物LCCを下げる栃木に最適なガラスファサード設計の提案」 ●小林宏輝 (研究室: 構造) : 2016年度 第86回 日本鋼構造協会 鋼構造シンポジウム2016 アカデミーセッション 優秀発表賞(11月) 「十字形断面を有するブレース接合部の構面外回転剛性評価法」 ●二瓶賢人 (研究室: 計画) : 2016年度 日本建築学会大会(九州)学術講演会 若手優秀発表賞 建築歴史・意匠部門(1月) 「芦沼地区における大谷石建物の外形と町並みの構成 栃木県宇都宮市を中心とする大谷石建物に関する研究7」 ●橋本真実 (研究室: 環境) : 2016年度日本建築学会大会(九州)学術講演会 若手優秀発表賞 環境工学部門 (1月) 「薪ボイラーによる床暖房システムを用いた古民家の熱環境実測研究 第1報 室内熱環境及び薪ボイラー温度の実測結果」 ●月守大二郎 (研究室: 環境) : 2016年度日本建築学会大会(九州)学術講演会 若手優秀発表賞 環境工学部門 (1月) 「エアコンの気流制御による温冷感及び知的生産性への効果の検証 その2 結果と考察」 ●須崎岳導 (研究室: 環境) : 2016年度日本建築学会大会(九州)学術講演会 若手優秀発表賞 環境工学部門 (1月) 「高性能窓システムをもつ建築の熱負荷解析 第12報 熱負荷曲線による高性能窓システムの評価」 ●下ノ園 慧 (研究室: 環境) : 2016年度日本建築学会大会(九州)学術講演会 若手優秀発表賞 環境工学部門 (1月) 「シミュレーションツールBESTIによるオフィスの熱負荷・熱環境解析第22報 建物の開口配置と自然換気効果に関する風量収支解析」 	<p>工学部建設学科建築学コースから地域デザイン科学部建築都市デザイン学科へ改組</p>	<p>2016年(平成28年)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●松山大介, 青木彩華, 佐藤大地 (研究室: 環境) : 宇都宮市大学生によるまちづくり提案第2位 「みどりの宮マップ ～環境視点のまちづくり～」 ●北上翔 (研究室: 環境) : 2017年度日本建築学会大会 (中国) 学術講演会若手優秀発表賞 (1月) 「栃木県における木材活用による環境効果に関する研究」 ●溝口真史 (研究室: 材料) : 2017年度日本建築学会大会 (中国) 学術講演会若手優秀発表賞 (1月) 「各種の水セメント比及び加熱養生条件に対応したプレキャストコンクリートの強度発現曲線」 ●直井聡人 (研究室: 材料) : 2017年度日本建築学会大会 (中国) 学術講演会若手優秀発表賞 (1月) 「実建築部材に適用できる接触角計測分析手法の開発」 ●島村亮 (研究室: 計画) : 2017年度日本建築学会大会 (中国) 学術講演会若手優秀発表賞 (1月) 「都市の拠点形成に関する定量的研究 不動産登記情報からみた宇都宮市における都市の形成過程」 ●水野裕介 (研究室: 計画) : 2017年度日本建築学会大会 (中国) 学術講演会若手優秀発表賞 (1月) 「塙のない大学キャンパス」における開放領域の構成に関する研究」 	<p>11号館竣工</p>	<p>2017年(平成29年)</p>

2-2. 研究教育活動の軌跡

■ 卒業設計の優秀者

2008年	平成20年	Folding Temporary Shelters System	下地 孝和
2009年	平成21年	だんだん ～人でつなく棚田再生への道～	堀内 絵美
2010年	平成22年	between	中村 周
2011年	平成23年	表と裏とその間 ～宇都宮市JR西口大通り沿い区画の再計画～	佐藤 秀斗
2012年	平成24年	HILL SIDE OF KOHINATA -こどもたちがあつまる図書館-	釣 真央美
2013年	平成25年	曲がる角には図書ばかり 農ある生活	鈴木 大輝 小笹 拓朗
2014年	平成26年	都市の湾処 ～清掃工場を中心とした認識転換のための交流施設～	久我 亮介
2015年	平成27年	第二のレイヤー 空中街区構想	二瓶 賢人
2016年	平成28年	verdancity -都市を間引く-	塚本 琢也
2017年	平成29年	架構で商う -釧路市場の再計画-	十文字 春奈

■ 卒業論文の優秀者

2008年	平成20年	せん断形式ボルト接合部の支圧耐力に関する研究	本元 充
2009年	平成21年	塩化物を含んだコンクリート中の鉄筋腐食に及ぼす各種要因の影響 -その2解析-	堀江 愛美
2010年	平成22年	建築仕上塗材としての大谷石粉末の環境性能に関する研究	宮澤 康太
2011年	平成23年	鉛直ハンチを有する H 形断面梁の力学性状に関する研究	渥美 潤一
2012年	平成24年	大谷石における劣化防止剤の色彩変化抑制効果に関する研究	矢内 拓実
2013年	平成25年	モルタル表面における水滴のぬれ進展特性に関する研究	佐山 諒
2014年	平成26年	建築構造用アンカーボルトの剛性および耐力評価に関する研究 -製品引張実験と引抜き実験-	齋藤 陸朗
2015年	平成27年	十字形断面を有するブレース接合部の構面外剛性評価法	小林 宏輝
2016年	平成28年	実建築部材に適用できる接触角計測分析手法の開発	直井 聡人
2017年	平成29年	各種の調合設計因子がモルタルの細孔構造と細孔内部の接触角に与える影響に関する研究	山口 豊

■ 修士論文 2008年

井坂 幸俊	ハイブリッドファイバーコンクリートにおける若材齢時の引張りラクスーション特性に関する研究	建築材料研究室
柿沼 智幸	世界各国の歴史的建造物保護・保存への取り組みの歴史と現状 -日本の歴史的建造物保護政策の位置づけ-	建築材料研究室
保坂 綱鎮	高炉スラグ微粉末を使用したコンクリートの湿潤養生期間に関する研究	建築材料研究室
渡邊 貴明	鹿沼市旧市街の歴史的な生活環境に関する研究	建築材料研究室
尹 来	スプリットティ形式接合部に用いるティスタブの剛性および降伏耐力に関する研究	建築構造研究室
栗原 成明	エンドタブに着目した梁端接合部の塑性変形能力に関する研究	建築構造研究室
土屋 智之	山形鋼筋かい接合部の降伏耐力および最大耐力に関する研究	建築構造研究室
早坂 昌彦	軸方向力と曲げモーメントを受ける角形鋼管柱の力学性能に関する研究 -応力度分布に着目した最大耐力評価-	建築構造研究室
和賀 佑	800N級鋼材を用いた高力ボルト摩擦接合部のすべり係数に関する研究 -表面粗さに着目したすべり性状-	建築構造研究室
老藤 慎也	地震観測記録に基づく地盤と建物との動的相互作用効果に影響を及ぼす地盤変形の評価に関する研究	建築構造研究室
尚 華	中国における小・中学校の建築空間の使われ方に関する研究	建築計画研究室
堰川 岳	HARMONIZING RESTORATION -烏山女子高校校舎の高齢者福祉施設への更新-	建築計画研究室
濱田 政和	Re : FASCINATED DISTRICT -宇都宮中心市街地における共同体商店街再生の構想-	建築計画研究室
渡辺 恭兵	CHAI N ∞ -小山市郊外におけるニュータウン開発手法の提案-	建築計画研究室
海藤 俊介	日米における産業連関表による建築物の建設時の環境評価	建築環境研究室

■ 修士論文 2008年

成田 慶子	中日における建設に必要なエネルギーとCO2排出量に関する研究	建築環境研究室
渡邊 海土	建築物の建設時の環境負荷原単位に関する研究	建築環境研究室
小林 信裕	建築・空調システムの連成シミュレーションに関する研究	建築環境研究室
郡司 智昭	角度特性を考慮した窓日射遮蔽性能値の実用的推定法	建築環境研究室

■ 修士論文 2009年

一山 くるみ	重要文化財建造物の動態保存における維持管理の現状と運営方策に関する研究	建築材料研究室
鎌田 亮太	オフィスビルのアプローチにおける美的姿勢評価に関する研究	建築材料研究室
神部 直也	打放しコンクリートの色彩設計に関する研究	建築材料研究室
佐藤 佳広	スラグ骨材を使用した高密度コンクリートの調合と諸性質に関する研究	建築材料研究室
田熊 亮史	歴史的建築物明日館における修復・保存に関する研究	建築材料研究室
松沢 友弘	高炉スラグ微粉末を使用したコンクリートの強度発現性状に及ぼす湿潤養生期間の影響に関する研究	建築材料研究室
竹内 啓介	森と人を紡ぐ空間 ー樹林地の管理活用を目的とした里山体験学習拠点施設ー	建築計画研究室
野作 晃章	企業の社会貢献活動におけるNPOとの協働の手法に関する研究	建築計画研究室
黎 庶旌	中国広州市城中村の外部共用空間における生活行動に関する研究	建築計画研究室
中村 輝俊	引張りおよびせん断力を受ける建築構造用アンカーボルトの力学性状に関する研究	建築構造研究室
前山 大	先組み溶接組立H形断面梁を用いた梁端混用接合部の脆性破断に関する研究	建築構造研究室
保坂 晋平	地震時における単層木質立体架構の振れ応答に関する研究	建築構造研究室
王 奕文	都市のエネルギー消費構造に関する分析	建築環境研究室
章 杰文	環境配慮型庁舎における自然換気性能に関する研究	建築環境研究室
出島 美由紀	建物の用途別のLCCO2の将来推計	建築環境研究室
狐塚 裕行	宇都宮市の地表面被覆特性と外気温度分布の解析	建築環境研究室
鈴木 康仁	ダブルスキンスシステムの事例解析と熱性能評価	建築環境研究室
文 昺鍾	躯体蓄熱空調の運転方式と熱負荷・熱環境評価	建築環境研究室
水沼 孝光	省エネ設備機器及び居住者の意識・住まい方による住宅のエネルギー削減効果に関する研究	建築環境研究室

■ 修士論文 2010年

熊谷 瑤子	セメント硬化体の乾燥収縮メカニズムに関する研究	建築材料研究室
園部 真理菜	建築内装仕上材としての大谷石の脱臭性能に関する研究	建築材料研究室
根本 裕規	セメントの鉱物組成がコンクリート強度発現に及ぼす影響に関する研究	建築材料研究室
阿部 秀顕	スローシティー～鹿沼市旧市街における路地空間の再生計画～	建築計画研究室
鈴木 悠司	ウツノミヤ ヴォイド ネットワーク ～宇都宮城址公園周辺部における建築と空地の再編による中心市街地居住計画～	建築計画研究室
滝田 涼介	釜川・リバーサイド・ハウジング～都市河川と建築空間の再構築による街なか活性化構想～	建築計画研究室
田中 圭	エマーゼンシー・パッサージュ～月島木造密集地域における路地の再編による防災街区計画～	建築計画研究室
直井 智之	住民による谷戸樹林地の管理活動と保全意識に関する研究	建築計画研究室
橋田 祥子	長屋門の役割と活用に関する建築計画的な研究	建築計画研究室
堀之内 裕輔	路地型高層居住～低層高密度居住地域と連続する高層住宅のオルタナティブ～	建築計画研究室
三浦 朋恵	高齢者の生活実態に即した地域見守り体制構築に関する研究	建築計画研究室
谷内田 佳奈	地域コミュニティとの連携による商店街の活性化に関する研究	建築計画研究室
脇田 茜	企業の社会貢献活動におけるNPOとの協働に関する研究	建築計画研究室
阿久津 英典	冷間成形角形鋼管柱を用いた既存中低層鋼構造骨組みに関する調査研究 ～部材設計および接合部設計の実状と分析～	建築構造研究室
下地 孝和	引張接合部における鋼板の降伏曲げ耐力に関する研究	建築構造研究室
山下 竜一	曲げモーメントおよびせん断力を受ける高力ボルト摩擦接合部のすべり耐力に関する研究	建築構造研究室
山田 智之	プレースが取り付くアンカーボルト降伏先行型露出柱脚の終局耐力に関する研究	建築構造研究室

■ 修士論文 2010年

高木 峻一	25度狭開先による角形鋼管柱・通しダイアフラム溶接部の力学性状	建築構造研究室
上野 絵梨子	長寿命建築物の環境性能評価に関する研究	建築環境研究室
折居 信	宇都宮市における建物・住宅の更新によるCO2排出量に関する研究	建築環境研究室
趙 一帆	中国東北部における地域暖房システムの省エネルギー方策に関する研究	建築環境研究室
劉 佳麗	グリーンエネルギーシステムの評価とその普及促進に関する研究	建築環境研究室
飯田 紘生	国内全域の地表面被覆特性と外気温との相関解析	建築環境研究室
今井 崇嗣	ダブルスキン日射遮蔽性能値の実用的推定法に関する研究	建築環境研究室
清水 達也	P M V制御を導入した躯体蓄熱空調の評価研究	建築環境研究室

■ 修士論文 2011年

王 嬌	各種ポルトランドセメントを用いた高強度コンクリートの構造体における強度発現性と調合強度	建築材料研究室
高山 浩平	鉄筋コンクリート造建築物の各種劣化抑制工法の評価に関する研究	建築材料研究室
武田 幸恵	住宅ストックの活用を目指した中古住宅の価値の評価に関する研究	建築材料研究室
劉 遠博	高炉スラグ細骨材を用いた高強度コンクリートの長期力学性状に関する研究	建築材料研究室
江連 佳祐	UU Tech・キャンパス・コモン ー産学官連携とオープンスペース活用による地域共生型キャンパス計画ー	建築計画研究室
加納 一真	高齢者の居住環境の評価手法に関する研究ー宇都宮市を事例としてー	建築計画研究室
NGUYEN XUAN TRUNG	ベトナム農村集落の居住環境整備に関する研究ーダナン市近郊フォンナム村を事例としてー	建築計画研究室
酒井 智季	子育て世帯の支援からみた居住継続性に関する研究ー栃木県における市町別の分析ー	建築計画研究室
佐熊 勇亮	トランスポート・コロシウム ー人と物をつなぐ多機能型ジャンクションの提案ー	建築計画研究室
福田 充弘	エコロカル・ハウジング ー宇都宮市中心市街地における住宅地再編計画ー	建築計画研究室
藤原 誠志	横浜市における谷戸緑地の保全に関する基礎的研究ー市民の森を対象としてー	建築計画研究室
西城 祐基	公立小中学校の統廃合要因と転用可能性に関する研究ー栃木県を事例としてー	建築計画研究室
加藤 智哉	高力ボルト接合部における支圧挙動に関する研究	建築構造研究室
佐治 貴大	高力ボルトを用いたプレース接合部のガセットプレート破断に関する研究	建築構造研究室
長嶺 賢吾	鋼板・山形鋼によるSTKR柱の補強設計法	建築構造研究室
新田 泰弘	先組み溶接組立H形断面材を用いた梁端接合部の脆性破壊に関する研究	建築構造研究室
渡邊 拓史	せん断力および曲げモーメントを受ける露出柱脚の力学性状に関する研究	建築構造研究室
芝沼 健	床開口の配置と大きさの違いが2階建木造建物のねじれ振動特性に及ぼす影響	建築構造研究室
久米 薫	都市密度とライフサイクルCO2の相関に関する研究	建築環境研究室
沼田 博美	各国における建設に伴うCO2排出量に関する研究	建築環境研究室
神山 隼人	躯体蓄熱空調における天井空間利用と二重床空間利用の特性解析	建築環境研究室
坂本 隼人	ダブルスキン窓ユニットの熱性能に関する実験と評価	建築環境研究室
水沼 毅貴	ダブルスキンシステムの期間熱性能に影響する要因分析	建築環境研究室

■ 修士論文 2012年

黒田 満	混入モルタルが再生粗骨材コンクリートの性能に及ぼす影響とその品質管理方法の検討	建築材料研究室
泉田 裕介	粗骨材の乾燥収縮特性がコンクリートの乾燥収縮に及ぼす影響に関する研究	建築材料研究室
峯 竜一郎	高強度プレキャストコンクリートの強度特性および製造時の強度管理手法に関する研究	建築材料研究室
森本 悠	塩化物イオン浸透に関する研究	建築材料研究室
李 暁赫	コンクリートの強度特性に及ぼす初期湿潤養生条件の影響およびその定量化に関する研究	建築材料研究室
財津 拓三	コンクリートの締固めの評価に関する研究	建築材料研究室
松林 誠	歴史的建築物の保存修復方法の傾向と活用状況に関する研究	建築材料研究室
宮澤 康太	建築内装仕上材としての大谷石臭気吸着性能に関する研究	建築材料研究室
山田 修平	大谷石の吸水による物理的性質および膨張挙動に及ぼす影響に関する研究	建築材料研究室
齋藤 良太	水平2方向載荷を受ける鋼構造柱梁接合部の弾塑性挙動	建築構造研究室
嶋谷 佳美	伝統木造構法における下げ鎌および包み込み貫の耐力・剛性評価式に関する研究	建築構造研究室
佐治 貴大	ボルト孔を有するガセットプレーとの最大耐力評価に関する研究	建築構造研究室

■ 修士論文 2012年

津釜 加奈恵	津波被災漁村集落における住民意向にもとづく住宅地再建計画の手法に関する研究 ～釜石市箱崎地区を事例として～	建築計画研究室
中村 周	地方都市の低密度中心市街地における空地の構成に関する研究—栃木県宇都宮市を事例として—	建築計画研究室
梅岡 翔吾	Orion Sky Street Project—空中歩廊付きアーケードによる商店街上層階の活用計画—	建築計画研究室
小野村 一弥	コンテナユニットユニバーシティ—仮設・組換・再利用・移動可能なユニットを用いたキャンパス計画—	建築計画研究室
黒澤 麻里	商店街の地域的機能からみたコミュニティとの連携	建築計画研究室
佐原 謙介	大谷石リサイクル・アーバンファニチャー —蔵の解体および震災により発生する大谷石廃材を用いた市街地の修景計画—	建築計画研究室
藤澤 悟	フリンジ・タウン—市街地周縁部における持続可能な住宅地計画—	建築計画研究室
野原 康弘	地方都市における高齢者の外出行動の空間特性に関する研究	建築計画研究室
中嶋 龍一	石炭火力発電所における熱環境と発電効率に関する研究	建築環境研究室
任 暁君	都市の環境情報マップの整備に関する研究 ～宇都宮市における未利用エネルギー活用の可能性及びCO2削減量の推計～	建築環境研究室
三木 潤一	都市の環境・防災情報システムに関する研究 ～東京都心部と宇都宮における実験～	建築環境研究室
元井 大喜	空調設計用蓄熱負荷計算法の提案	建築環境研究室
守 雅俊	高性能窓システムの熱性能評価のための実用計算法の提案	建築環境研究室
吉澤 周平	天井放射パネルユニットの伝熱性能の推定に関する研究	建築環境研究室
今野 寛之	大学の施設マネジメントにおける建物更新判断指標に関する研究	建築環境研究室

■ 修士論文 2013年

小野 克也	各種コンクリートの初期養生条件が中性化進行に及ぼす影響の定量化に関する研究	建築材料研究室
中村 翠	建築外装材として用いられる大谷石の経年劣化とその補修方法に関する研究	建築材料研究室
金 知恩	ハンोक・リジェネレーション・シティ～韓屋の再解釈による居住環境改善地区の再生計画～	建築計画研究室
坂本 茂樹	栃木県の公立小中学校廃校舎における高齢者施設等への活用可能性の評価手法に関する研究	建築計画研究室
佐藤 秀斗	ローカル・コモンハブ・ステーション ～栃木県下野市JR自治医大駅における公共施設を合築した複合駅舎の計画～	建築計画研究室
千葉 暢彦	市庁舎の設計過程における市民ワークショップの成果と手法の有効性に関する研究	建築計画研究室
羽部 竜斗	タガワ・リバー・ステーション～JR宇都宮駅西口地区における河川一体型再開発計画～	建築計画研究室
馬場 祐士	日常利用型公共施設のファシリティマネジメントに関する研究～栃木県日光市を事例として～	建築計画研究室
福田 聖也	インスタント・ヴォイド・コンバージョン～移動可能な建築による街なか空地の活用計画～	建築計画研究室
松浦 達也	建物の連携による大学キャンパスの空間構成に関する研究	建築計画研究室
松本 遼平	シルク・ライン・ファクトリー～低利用貨物軌道の活用による結城産産業振興地区計画～	建築計画研究室
三浦 貴之	アクセシビリティの視点による二次医療圏の評価に関する研究～栃木県の二次医療圏を事例として～	建築計画研究室
望月 瞬	中国広州市城中村における集落固有性に関する研究	建築計画研究室
下地 高志	マルチレイヤー・コミュニティ～沖縄県宮古島市における定住化促進に向けた環境配慮型集落計画～	建築計画研究室
渥美 潤一	鉛直ハンチを有するH形断面梁の座屈挙動および耐力評価	建築構造研究室
宗川 陽祐	25度狭開先口ボルト溶接による冷間成形角形鋼管柱と通しダイアフラム溶接部の破壊評価に関する研究	建築構造研究室
田代 翼	大学における環境配慮型施設マネジメントに関する研究	建築環境研究室
大嶋 瑞己	自然換気を行うダブルスキンの冷房設計用熱性能に関する研究	建築環境研究室
齋藤 翔太	空調設計用蓄熱負荷計算法とその検証に関する研究	建築環境研究室

■ 修士論文 2014年

Susan	実建物におけるコンクリートの中性化進行の分析及びその予測手法の提案	建築材料研究室
水戸 健介	プレキャストコンクリートの製造過程における新たな強度管理手法の提案	建築材料研究室
宮澤 友基	ICタグを活用したコンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究 ～鉄筋コンクリート部材中に投入するICタグについての検討～	建築材料研究室
安 紅	新里院計画～中国青島市におけるコミュニティと環境に配慮した集住街区の提案～	建築計画研究室
伊藤 駿	地域におけるグリーンツーリズム実践者のネットワークに関する研究 ～栃木県グリーンツーリズム・ネットワークを事例として～	建築計画研究室

■ 修士論文 2014年

稲川 芽衣	町並みと地域の持続可能性に向けた大谷石集落再生計画	建築計画研究室
小倉 建太郎	漁村集落における津波被災住民の意識と復興計画に関する研究 ～岩手県釜石市箱崎地区を事例とした発災後4年間の意識推移～	建築計画研究室
勝又 亮介	タガワ・リバーサイド・ファクトリー～宇都宮市における地域産業再興に向けた河川沿い街区計画～	建築計画研究室
Nguyen Thi Thai Trinh	建築計画・地域計画におけるワークショップ・プログラムに関する研究	建築計画研究室
佐藤 美紅	地域特性を考慮した就学前児童施設の適切な立地に関する研究 ～栃木県日光市、宇都宮市における利用者意識と就労構造との関連性～	建築計画研究室
谷風 美樹	宇都宮大学大谷石旧図書館書庫の保存活用に関する研究	建築計画研究室
Pham Ha Linh	栃木県における障がい福祉サービス提供体制評価に関する研究～施設の立地、利用圏のアクセシビリティ～	建築計画研究室
松尾 紅音	就学前障がい児通所施設における運用実態から見た施設のあり方に関する研究 ～障がい特性や安全に対する運用時の工夫・要望の抽出～	建築計画研究室
Le Hai Anh	障がい児支援施設のプール事業に関する建築計画的な研究～宇都宮市子ども発達センターを事例として～	建築計画研究室
工藤 慈野	角形鋼管柱とH形鋼梁に取り付けブレース接合部の構面外曲げ剛性とブレースの有効座屈長の評価	建築構造研究室
金 和幸	水平スチフナによる梁端ウェブの補強設計法～既存鋼構造建築物における梁端接合部の補強方法～	建築構造研究室
齊藤 拓人	ウェブに高強度鋼を用いたハイブリッド軽量H形鋼の座屈挙動に関する研究	建築構造研究室
中島 昌紀	鋼構造露出柱脚の最大せん断耐力評価に関する研究	建築構造研究室
寺島 徹	省エネルギー化推進のための大学における施設マネジメント体制に関する研究	建築環境研究室
増田 圭太	温泉熱利用システム導入によるエネルギー消費量、CO2排出量削減に関する研究	建築環境研究室
青山 翔夏	エアフローウィンドウを採用するガラス建築の熱負荷解析	建築環境研究室

■ 修士論文 2015年

佐山 諒	コンクリート壁面に対する劣化外力としての雨滴の流下特性の分析	建築材料研究室
小野 美貴	鉛直ハンチを有するH形断面梁の座屈性状および最大曲げ耐力に関する研究	建築構造研究室
倉成 真也	先組みビルトH梁を用いた梁端接合部の脆性破壊防止法	建築構造研究室
宇賀神 直彬	地域特性と実働データからみた救急・消防拠点の評価に関する研究～栃木県宇都宮市を事例として～	建築計画研究室
古賀 直人	ライブラリー・コア・ステーション～まちの中心としてのJR黒磯駅図書館複合駅舎の計画～	建築計画研究室
榊 京太郎	送迎・通勤行動から見た子育て支援環境の構築に関する研究	建築計画研究室
中岡 進太郎	ウツノミヤ・マチャ・ストリート～地方都市中心市街地居住に向けた旧街道再生と新規町屋の提案～	建築計画研究室
柳 紘司	大谷石建造物の活用に向けた改修補強設計に関する研究	建築計画研究室
横山 伊織	トランジット・インタラクティブ・ステーション-LRT導入に伴う歩行者滞留型のJR宇都宮駅西口再開発計画-	建築計画研究室
青木 寿亘	天井放射空調オフィスの熱的快適性と省エネ性の評価	建築環境研究室
鈴木 大輝	エネルギーシミュレーションツールの比較と検証	建築環境研究室
高橋 一貴	空調設計用予冷熱時間と最大熱負荷の安全度評価	建築環境研究室
養田 泰太	大学施設の省エネルギー方策に関する研究	建築環境研究室

■ 修士論文 2016年

飯島 玲	フライアッシュ混合コンクリートの強度・中性化抵抗性の推定およびそれら情報の管理に関する研究	建築材料研究室
河村 千秋	生コンクリートの製造時におけるエネルギー消費量推計モデルの構築とそのパラメータ推定	建築材料研究室
伊藤 駿	鋼構造立体十字形架構の弾塑性挙動解明と力学性能評価	建築構造研究室
大山 由季乃	梁せいが異なる場合の補強鋼板を有する柱梁接合部の力学的挙動に関する研究	建築構造研究室
齋藤 陸朗	組合せ応力を受ける建築構造用アンカーボルトの力学性状に関する研究	建築構造研究室
二階堂 稜馬	現場混用形式の梁端接合部における応力伝達機構	建築構造研究室
畠山 大地	高力ボルトを用いたガセットプレート接合部の有効断面破断耐力評価に関する研究	建築構造研究室
PHOMMASAK SOUTSADA	引張力を受けるCLT木ねじ接合部の復元力特性に関する研究	建築構造研究室
江連 寛二	多目的コモンスペースを中心とする室配列からみたキャンパス建築の公開性に関する研究	建築計画研究室
福沢 潤哉	手工業におけるモノからみた工場建築の設えに関する研究～都市河川沿いの染工場を事例として～	建築計画研究室
小林 基澄	宇都宮市中心市街地における大谷石建物の外形構成と景観評価に関する研究	建築計画研究室
岩本 博未	設計時における自然換気ビルの性能予測に関する研究	建築環境研究室

■ 修士論文 2016年

太田 亮平	奥日光における温泉熱利用システム導入効果による環境負荷低減と副次的効果に関する研究	建築環境研究室
久我 亮介	大谷地区における地下空洞水を利用した冷熱エネルギーシステムに関する研究	建築環境研究室
佐々木 宏一郎	カラーマップを用いたダブルスキンの地域適合性評価	建築環境研究室
下ノ菌 慧	風量収支解析による自然換気量と中性帯位置の予測に関する研究	建築環境研究室
須崎 岳導	熱負荷曲線による高性能窓システムの評価	建築環境研究室
野崎 海	全熱交換器併用エアフローウィンドウの効果解析	建築環境研究室

■ 修士論文 2017年

溝口 真史	各種コンクリート壁体中の水分挙動の解明およびその推定手法に関する研究	建築材料研究室
工藤 雄大	CLT (Cross Laminated Timber) の座屈強度の評価法に関する研究	建築再生安全研究室
鈴木 悠太	輝度対比の効果を検討した明るさ感指標に関する基礎的研究	建築再生安全研究室
松本 悠杜	クリープ関数の分析に基づく木質構造材料のクリープ限度の推定法に関する研究	建築再生安全研究室
内沢 絢子	ボルト張力に着目した高力ボルト接合部における降伏耐力に関する研究	建築構造研究室
菊地 翔吾	せん断力および曲げモーメントを受ける建築構造用アンカーボルトの力学性状に関する研究	建築構造研究室
小林 宏輝	十字形継手を有するガセットプレート形式ブレース端接合部の構面外回転剛性と全塑性曲げ耐力	建築構造研究室
山崎 大輔	鉛直ハンチを有するH形断面梁の座屈挙動および最大曲げ耐力評価に関する研究	建築構造研究室
陸 金明	めっき薄鋼板を用いた高力ボルト摩擦接合部すべり挙動に関する研究	建築構造研究室
葛原 希	過疎地域の高齢化集落における集落機能の維持に関する研究	建築計画研究室
斉藤 太紀	グリーンツーリズム・ネットワークの構築に向けた組織連携のあり方に関する研究	建築計画研究室
鹿野 桃佳	利便性評価と住民の生活意向を反映させた地域拠点形成に関する研究	建築計画研究室
二瓶 賢人	大谷石建物における営みに関する研究—宇都宮市北部農村地域の3地区を事例として—	建築計画研究室
渡邊 翼	道路空間における滞在のための設えとアクティビティに関する研究 —宇都宮市オリオン通りオープンカフェの実践を通して—	建築計画研究室
宇佐美 喜一郎	建築の生産と意匠からみたベトナム現代建築における地場素材の集合に関する研究	建築計画研究室
天城 大治	自然換気を併用する外気導入制御システムの効果解析	建築環境研究室
佐東 拓海	風量収支計算による風力が加わる温度差換気の基本解析	建築環境研究室
THAI DO THANH TUNG	世界各地におけるファサードとブラインド制御の省エネルギー性能検討	建築環境研究室
月守 大二郎	気流制御が生理・心理反応に及ぼす影響に関する研究	建築環境研究室
橋本 真実	熱負荷に基づく東京実在30年気象の過酷さ解析	建築環境研究室
PHAN MINH TUAN	ハノイにおける建築物の緑化による環境効果に関する研究	建築環境研究室
山田 昭徳	文献調査と数値解析からみた外部日除けをもつ建築の動向調査	建築環境研究室
吉澤 彰太郎	大谷地区における地域環境資源を活用した冷却システムに関する研究	建築環境研究室

2-2. 研究教育活動の軌跡：博士論文

博士論文

氏名	論文題目	学位授与
英 林	Study on the spatial compositional factors of Chinese intelligentsia garden and the adhibition to energy conscious modern buildings	2008年9月30日
西村 真治	鉄筋腐食補修工法における補修効果の評価と補修工事仕様に関する研究	2009年3月24日
岡本 茂	天井放射冷暖房用パネルの性能に関する解析および実験研究	2009年3月24日
佐々木 正信	主要建築工事原単位分析および既設建物のコミショニング効果検証に関する研究	2009年3月24日
田中 斉	コンクリートの化学的腐食の評価とその対策に関する研究	2009年3月24日
吉岡 昌洋	各種ボルトランドセメントを用いるコンクリート品質にせき板存置期間が及ぼす影響の評価と仕様への適用に関する研究	2009年9月30日
長塩 靖祐	エコセメントコンクリートの基本性能と品質改善に関する研究	2010年3月24日
川西泰一郎	既存鉄筋コンクリート造建築物における構造体コンクリートの性能評価と調査・診断マニュアルへの応用に関する研究	2010年3月24日
渡辺 亨	紡錘型履歴性状を示すアンカーボルト降伏型露出柱脚の力学性状に関する研究	2010年3月24日
西村 進	鉄筋コンクリート造建築物におけるかぶり厚さの分布と要因の分析および設計・施工基準への適用に関する研究	2011年3月24日
渡辺 真季	小学校の環境教育における地域と学校の環境資源の利活用に関する研究	2011年3月24日
唐澤 智之	既存鉄筋コンクリート建物における仕上塗材の透気性による中性化進行の評価に関する研究	2011年9月30日
石 東昇	高炉スラグ細骨材を使用した高強度コンクリートの力学特性および調合設計法に関する研究	2011年9月30日
高橋 祐一	再生粗骨材における混入モルタルが再生骨材コンクリートの性能に及ぼす影響の評価に関する研究	2011年9月30日
海藤 俊介	日米における建築物の建設に伴うエネルギー消費量及びCO ₂ 排出量に関する研究	2012年3月22日
佐久間 順三	既存木造住宅耐震補強の費用対効果の試算	2012年3月22日
起橋 孝徳	外装タイル張り仕上げの剥離のメカニズムと危険性評価に関する研究	2012年9月28日
大野 吉昭	コンクリートの乾燥収縮に及ぼす各種要因の影響の評価と予測式の設定に関する研究	2012年9月28日
松下 重雄	英国との比較からみた日本におけるグラウンドワークの展開に関する研究	2012年9月28日
掛川 勝	コンクリート中の鉄筋腐食速度に及ぼす各種要因の影響の評価に関する研究	2012年9月28日
齋藤 榮	重要文化財建物自由学園明日館の動態保存のための保存修理工事および完成後の運営状況に関する研究	2012年9月28日
福田 杉夫	亜硝酸リチウム含有ポリマーセメントモルタルの表面被覆工法による鉄筋コンクリートの耐久性向上に関する研究	2013年3月25日
朴 美玉	中国上海市集合住宅における高齢者居住の継続性に関する研究	2013年3月25日
黎 庶旌	中国広州市城中村の空間構成と整備方策に関する研究	2013年3月25日
小泉 信一	シリカフェーム混入セメントを用いた高強度コンクリートの水和反応および強度発現メカニズムに関する研究	2013年3月25日
市田 登	地域コミュニティによる高齢者の見守り体制構築に関する研究	2013年3月25日
笹倉 博行	傾斜フロー試験器によるフレッシュコンクリートの流動性評価に関する研究	2013年3月25日
尾内 俊夫	枠組壁工法住宅における釘接合部の履歴特性を用いた構造部位および建物全体の荷重変位履歴の予測手法	2013年9月30日
塩谷 正樹	スリットを有する天井放射パネルユニットの制御法及び汎用熱計算法に関する研究	2014年3月24日
佐藤 豊	住宅の熱環境の実態及び自然室温による住宅熱性能評価に関する研究	2014年3月24日
浦野 唯一	カナダ・日本の産業連関表による建築物の建設に伴うエネルギー消費量とCO ₂ 排出量に関する研究	2015年3月24日
財津 拓三	建築用コンクリートにおけるフライアッシュの利用拡大に関する研究	2016年3月24日
李 曉赫	湿潤養生条件がコンクリートの品質に及ぼす影響およびその評価手法に関する研究	2016年3月24日
田沼 毅彦	実建築物の中性化に及ぼす各種影響の解明と劣化評価への応用	2017年3月24日
野原 康弘	高齢期の生活を支える施設の配置とサービスの提供実態からみた居住環境評価に関する研究	2017年3月24日
松浦 達也	建物のコモンスペースの配列からみた現代日本の大学キャンパスの公開性に関する研究	2017年3月24日
三宅 貴之	居住地と施設の立地に基づくアクセシビリティと施設のサービス供給能力からみた医療提供体制の評価に関する研究	2017年3月24日
丸山 純夫	地域材による木造住宅の開発とその耐震性能-「とちぎの木の家」を事例として-	2017年3月24日
藤村 達雄	国立大学の施設マネジメントにおける省エネ化推進に関する研究	2017年3月24日
中村 周	地方都市中心市街地における空地の形態構成に関する研究	2017年3月24日
宗川 陽祐	25度狭開先ロボット溶接を適用した角形鋼管柱端接合部の破壊評価に関する研究	2018年3月23日

2-2. 研究教育活動の軌跡：製図カリキュラム

■工学部 建設学科建築学コース（2017年度3年生まで）
2008年度より非常勤講師を2年生と3年生で各1回ずつ迎える。
[担当教員]は2015年度。*非常勤講師

2年	前期	建築設計製図Ⅰ	木造住宅トレース 自室実測 C A D	[安森] [三橋・佐藤] [佐藤]
		建築設計製図Ⅱ	構造図トレース 設備図トレース	[増田・中野・中島（昌）] [横尾・糸井川]
	後期	建築設計製図Ⅲ	木造小住宅 集合住宅	[安森] [若松*・安森]
3年	前期	建築設計製図Ⅳ	保育施設 大学図書館	[三橋・佐藤] [安森]
	後期	建築設計製図Ⅴ	大谷情報センター 貸事務所	[更田*・安森] [更田*・全研究室]



建築設計製図Ⅳ 講評会



建築設計製図Ⅲ・Ⅴ 合同講評会

■地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科（2016年度1年生から）
従来の図学を1年通年から半期にし、1年後期から建築設計の読み・描き・観察のリテラシーを育む「建築設計基礎」を導入した。また、構造設計・設備設計は従来のトレースに代わり2年・3年の設計課題に関連づけて修得するようにし、3年後期に地域志向のコース制を導入した。[担当教員]は2017年度。*非常勤講師

1年	後期	建築設計基礎	デザイン演習 模型・プレゼンシート 木造住宅トレース	[安森・大嶽] [同上] [同上]
2年	前期	建築設計製図Ⅰ	木造小住宅 C A D	[安森・大嶽・中島（史）] [大嶽]
	後期	建築設計製図Ⅱ	保育施設 集合住宅	[星野*・佐藤・古賀・中野] [金野*・大嶽・佐藤]
3年	前期	建築設計製図Ⅲ	サステナブル建築 まちの図書館	[古賀・藤原・増田・中野] [安森・大嶽]
	後期	建築地域設計製図	・計画コース ・環境・材料コース ・構造設計コース	[慶野*、計画・意匠系教員] [環境・材料系教員] [構造系教員]



設計製図基礎 風景パノラマスケッチ



建築設計製図Ⅰ 木造小住宅

■大学院 工学研究科 地球環境デザイン学専攻建築環境デザイン学コース
2012年度より、研究科必修科目「創成工学プロジェクト」の建築課題で、研究室横断チームによる地域に向けた設計提案に取り組んでいる。

M1 前期 創成工学プロジェクト 建築課題 [塩田*・安森・大嶽]
カマガワ・リバーサイド・ハウジング（2012）
マチナカ・リビング＋ワーキング（2013）
鹿沼市庁舎整備計画（2014）、黒磯まちなか交流センター（2015）
栃木県文化芸術館・文学館（2016）、大谷リノベーション（2017）

■ここ10年間の非常勤講師

金野千恵（建築設計製図Ⅲ：集合住宅 2017～）
慶野正司（建築設計製図Ⅴ：大谷情報センター，貸事務所 2017～）
星野知宏（建築設計製図Ⅳ：保育施設 2016～）
若松均（建築設計製図Ⅲ：集合住宅 2011，2012，2014～2016）
更田邦彦（建築設計製図Ⅴ：大谷情報センター，貸事務所 2012～2016）
久野靖広（建築設計製図Ⅲ：集合住宅 2013）
鈴木康博（建築設計製図Ⅴ：高齢者集合住宅，貸事務所 2011）
山本学（建築設計製図Ⅲ：独立住宅，店舗併用住宅 2008～2010）
星裕之（建築設計製図Ⅴ：社宅，大学図書館，貸事務所 2008～2010）
塩田大成（大学院 創成工学プロジェクト 2017～）
小野里信（大学院 インターンシップ設計演習 2010，創成工学プロジェクト 2011～2016）
正田亨（大学院 インターンシップ設計演習 2009）



建築設計製図Ⅱ 非常勤講師レクチャー



創成工学プロジェクト
大谷リノベーション

2-2. 研究教育活動の軌跡：非常勤講師

2008年度～2017年度の非常勤講師の方々です。様々な支援を受けながら授業運営を行ってきました。

■ 学部

設計製図	建築設計製図Ⅱ	星野 友宏	任期 2017年～
	建築設計製図Ⅱ	金野 千恵	任期 2017年～
	建築設計製図Ⅲ	山本 学	任期 2008～2011年
	建築設計製図Ⅲ	若松 均	任期 2011～2016年
	建築設計製図Ⅲ	久野 靖広	任期 2013年
	建築設計製図Ⅳ	星野 友宏	任期 2017年～
	建築設計製図Ⅴ	星 裕之	任期 2008～2010年
	建築設計製図Ⅴ	鈴木 康博	任期 2011年
	建築設計製図Ⅴ	更田 邦彦	任期 2012～2016年
	建築設計製図Ⅴ	慶野 正司	任期 2017年～
建築計画Ⅰ・Ⅱ	三橋 伸夫	任期 2017年～	
建築法規		海老原 忠夫	任期 ～2008年
		富田 満	任期 2009～2015年
		福田 康文	任期 2016年～
歴史意匠	歴史意匠Ⅱ・ⅢⅡ	中村 恵三	任期 ～2014年
	歴史意匠Ⅰ・建築史Ⅰ	渡邊 美樹	任期 2016年～
	歴史意匠Ⅲ・建築史Ⅰ	河東 義之	任期 ～2011年
	歴史意匠Ⅲ	山崎 鯛介	任期 2013年～
構造設計論		福島 順一	任期 ～2008年
		川田 雅義	任期 2009～2010年
		野呂 一幸	任期 2012～2014年
		細澤 治	任期 2016年～
設備設計論		平山 昌宏	任期 ～2009年
		竹部 友久	任期 2011年～
建築生産		大喜多 一晃	任期 ～2010年
		生天目 泰	任期 2011～2014年
		秋山 学	任期 2015年～
土質基礎工学		田村 昌仁	任期 ～2008年
		飯場 正紀	任期 2009～2011年
		平出 務	任期 2009～2011年
		新井 洋	任期 2010～2011年
		實松 俊明	任期 2012年～

■ 大学院

インターンシップ	正田 亨	任期 2009年
設計演習創成工学プロジェクト	小野里 信	任期 2010～2016年
	塩田 大成	任期 2017年～

2-3. 学生活動の軌跡：コンペ入選

- 2008年(平成20年)** ●堀之内裕輔 (研究室：計画)
JIA栃木クラブ最優秀賞(3月) (主催：日本建築家協会関東甲信越支部)
- 2009年(平成21年)** ●福田充弘 (研究室：計画)
せんだいデザインリーグ2010卒業設計日本一決定戦 11位タイ
●佐熊勇亮 (研究室：計画)
せんだいデザインリーグ2010卒業設計日本一決定戦 18位タイ
- 2010年(平成22年)** ●阿倍秀顕, 鈴木悠司, 滝田涼介, 田中圭, 直井智之, 橋田祥子, 堀之内裕輔 (研究室：計画)
第12回「まちの活性化・都市デザイン競技」宇都宮市長特別賞(5月) (主催：(財)都市づくりパブリックデザインセンター)
●佐熊勇亮, 松下晃士 (研究室：計画,他)
A Grand Idea - Inhabit competition Finalists(7月)
●鈴木悠司, 堀之内裕輔 (研究室：計画)
2010住宅設計コンペ優秀賞(8月) (主催：全日本学生建築コンソーシアム)
●佐熊勇亮 (研究室：計画)
第3回イズモザキデザインコンペ入賞(8月)
●佐熊勇亮 (研究室：計画)
第3回すまコン コーディネートコンテスト入賞(11月)
- 2011年(平成23年)** ●松下晃士, 佐熊勇亮 (研究室：計画,他)
第1回賞学生アイデアコンペティション 金賞(5月) (主催：マルスギ株式会社)
●佐熊勇亮, 松下晃士 (研究室：計画,他)
第1回賞学生アイデアコンペティション 銀賞(5月) (主催：マルスギ株式会社)
●佐熊勇亮 (研究室：計画)
第4回すまコン コーディネートコンテスト 最優秀賞(6月)
●中村周 (研究室：計画)
2011住宅設計コンペ 佳作(8月) (主催：全日本学生建築コンソーシアム)
●佐熊勇亮 (研究室：計画)
第13回シェルターインターナショナル学生設計競技 入賞(9月) (主催：株式会社シェルター)
●中村周 (研究室：計画)
第5回すまコン コーディネートコンテスト 優秀賞(9月)
●中嶋龍一 (研究室：環境)
大学生によるまちづくり提案 第3位(12月) (主催：宇都宮市)
- 2012年(平成24年)** ●佐藤秀斗, 金知恩, 羽部竜斗, 福田聖也, 松浦達也, 松本遼平 (研究室：計画)
2012年度支部共通事業 日本建築学会設計競技 支部入選(9月) (主催：日本建築学会)
●田代翼 (研究室：環境)
大学生によるまちづくり提案 第1位(12月) (主催：宇都宮市)
●釣真央美 (研究室：計画)
JIA栃木クラブ最優秀賞(3月) (主催：日本建築家協会関東甲信越支部)
●山崎美穂 (研究室：2年生)
第7回日本建築家協会 北関東甲信越地域会 学生課題設計コンクール2013 銀賞(3月) (主催：日本建築家協会関東甲信越支部)
●松本遼平 (研究室：計画)
第1回タマホームデザインコンペティション2012「住まいの新しいベーシック」佳作(3月) (主催：タマホーム)
- 2013年(平成25年)** ●野崎海, 園田勝正, 山崎美穂, 福田聖也, 佐藤美紅 (研究室：3年生/計画)
東芝エレベーター 未来エレベーターコンテスト2013 最優秀賞(11月) (主催：東芝エレベーター)
●田中しおり (研究室：3年生)
池袋の路面電車とまちづくりの会 10周年記念事業「LRTが叶える私の夢」車両デザインの部 優秀賞(11月) (主催：池袋の路面電車とまちづくりの会)
●岩本博未 (研究室：3年生)
池袋の路面電車とまちづくりの会 10周年記念事業「LRTが叶える私の夢」イラストの部 優秀賞(11月) (主催：池袋の路面電車とまちづくりの会)
●坂本茂樹, 千葉翔彦, 馬場祐士, 三宅貴之, 望月瞬, 伊藤駿, NGUYEN Thi Thai Trinh, 佐藤美紅, PHAM Ha Lin (研究室：計画)
2013年度日本建築学会技術部門設計競技次世代に継ぐ住宅の再設計画一東日本大震災からの復興一 佳作(8月) (主催：日本建築学会)
●松本遼平, 佐藤秀斗, 羽部竜斗, 福田聖也, 松浦達也, 中村周 (研究室：計画)
日本建築学会・子ども教育事業委員会主催 第3回子どものまち・いえワークショップ提案コンペ・最優秀賞(6月) (主催：日本建築学会)
●寺島徹 (研究室：環境)
大学生によるまちづくり提案 第2位(11月) (主催：宇都宮市)
●中村周, 福田聖也 (研究室：計画)
大学生によるまちづくり提案 第3位(11月) (主催：宇都宮市)
●天城大治 (研究室：2年生)
第8回日本建築家協会 北関東甲信越地域会 学生課題設計コンクール2014 審査委員長特別賞(3月) (主催：日本建築家協会関東甲信越支部)
●柳 紘司 (研究室：計画)
JIA栃木クラブ最優秀賞(3月) (主催：日本建築家協会関東甲信越支部)
- 2014年(平成26年)** ●佐藤美紅, 野原康弘, 三宅貴之, 小倉建太郎, 松尾紅音, 宇賀神直彬, 柳京太郎, 野村洋介, 山崎美穂 (研究室：計画)
札幌市「真駒内の未来を考えるまちづくりアイデアコンペ」総合提案 奨励賞(10月) (主催：札幌市)
●横山伊織, 稲川芽衣 (研究室：計画)
第21回空間デザイン・コンペティション 入選(10月) (主催：日本電気硝子)
●中岡進太郎 (研究室：計画)
マロニエ学生BIM設計コンペティション とちぎ建設技術センター理事長賞(10月) (主催：栃木県建築士事務所協会)
●古賀直人 (研究室：計画)
マロニエ学生BIM設計コンペティション 池田靖史賞(10月) (主催：栃木県建築士事務所協会)
●稲川芽衣 (研究室：計画)
大学生によるまちづくり提案 第3位(12月) (主催：宇都宮市)
- 2015年(平成27年)** ●二瓶賢人 (研究室：計画)
JIA栃木クラブ最優秀賞(3月) (主催：日本建築家協会関東甲信越支部)
- 2016年(平成28年)** ●鹿野桃佳, 野原康弘, 三浦彩, 水落夏緒 (研究室：計画)
東芝エレベーター 未来エレベーターコンテスト2016 審査員賞(11月) (主催：東芝エレベーター)
●小林基澄, 岩淵達朗, 松浦達也, 江連寛二, 二瓶賢人 (研究室：計画)
宇都宮市景観上価値のある歴史的建造物保存・活用イメージコンペティション 宇都宮市長賞(11月) (主催：栃木県建築士会)
●松山大介 (研究室：環境)
JIA栃木クラブ最優秀賞(3月) (主催：日本建築家協会関東甲信越支部)
●牧野有沙 (研究室：3年生)
第11回公益社団法人日本建築家協会関東甲信越支部 北関東甲信越地域会 学生課題設計コンクール 銅賞(3月) (主催：日本建築家協会関東甲信越支部)
- 2017年(平成29年)** ●松山大介, 青木彩華, 佐藤大地 (研究室：環境)
大学生によるまちづくり提案 第2位(12月) (主催：宇都宮市)
●高橋広野 (研究室：計画)
第4回マロニエ学生BIM設計コンペティション 栃木建設技術センター理事長賞 (主催：栃木県建築士事務所協会)
●宮川広大 (研究室：再生安全)
JIA栃木クラブ最優秀賞 (主催：日本建築家協会関東甲信越支部)

2-3. 学生活動の軌跡：建築展

第 35 回 建築展テーマ 「自然と建築」

建築は建物単体では存在できません。それらを取り巻く社会的背景や、その土地に根付く風土、そして何より周辺の環境とともに共存して初めて建築として存在できます。私たちはこのような考えのもと、建築を囲むあらゆるものを自然としてとらえ、自然と建築の共存の振る舞いについての面白さを、見て、作って、感じる事ができる展示を企画しました。

第 35 回 (2017)

テーマ：自然と建築／講演：平田晃久 氏

第 34 回 (2016)

テーマ：生きる人々と生きる建築／講演：手塚由比 氏

第 33 回 (2015)

テーマ：実は身近な建築、実に身近な建築
／講演：慶野正司 氏

第 32 回 (2014)

テーマ：ボクハこんな空間が好き／講演：長谷川豪 氏

第 31 回 (2013)

テーマ：空間展示場／講演：谷尻誠 氏

第 30 回 (2012)

テーマ：震災瓦礫（建具）を用いたインスタレーション
／講演：塚本由晴 氏

第 29 回 (2011) テーマ：栃木建築名鑑

／講演：西沢立衛 氏

第 28 回 (2010) テーマ：Painting Landscape

／講演：石上純也 氏

第 27 回 (2009) 講演：手塚貴晴 氏

第 26 回 (2008) テーマ：joy anger sadness omfort

／講演：妹島和世 氏

2017 年度の建築展開催で無事 35 回を迎えることができ大変うれしく思います。また、新学部である地域デザイン科学部建築都市デザイン学科が新設された今、創設 40 年目を迎えた建設学科建築学コースの最後の代として、今回の建築展の開催が成功できたことを誇りに思います。

さて、今年度の建築展では「自然と建築」というテーマで様々な企画を行いました。峰ヶ丘祭では、建築展では模型づくり体験のワークショップとして出展してもらい、外壁パーツをとりつけて、色を塗って、中禅寺湖かオリオン通り周辺の敷地模型に設置して、写真を撮るというものです。連日お子さんを中心に多くの人に参加して頂き、大成功を収めることができました。講演会では、建築家平田晃久氏をお呼びして時系列的に作品を解説しながら独自の建築思想についての講演をしていただきました。こちら県内外問わず多くの建築学生や社会人の方々、そして地域の人々に参加していただき大成功を収めることができました。

建築展開催にあたり、私たちは 4 月ごろからミーティングを重ねてきました。各々が課題や先輩の卒業設計のお手伝いやアルバイトなど、忙しい 3 年生という時期に協力しながら学科一丸となって頑張ることができたことは、学生主体で開催できたという自信だけでなく、大学生活のいい思い出にもなりました。

第 35 回建築展実行委員長
建設学科建築学コース 3 年 富岡良介



2-4. 研究室活動の軌跡：現行研究室体制

工学部建設学科建築学コースから地域デザイン科学部建築都市デザイン学科に移行した際、5つ目の再生・安全研究室が誕生しています。

建築構造研究室

- 教授：増田 浩志，建築構造，鋼構造
 - ①鋼構造建築物における接合部の力学性状
 - ②鋼構造骨組の耐震性能評価
- 准教授：中野 達也，建築構造，鋼構造
 - ①鋼構造建築物における接合部性能の評価
 - ②鋼構造建築物における接合部設計の合理化
 - ③鋼構造建築物における新しい接合構法の開発

建築計画研究室

- 准教授：安森 亮雄，建築意匠，建築設計
 - ①建築の衣装，町並み，営み
 - ②都市のデザイン，設え，アクティビティ
 - ③建築作品の空間構成論，建築家の設計論
- 准教授：佐藤 栄治，都市計画，都市解析，建築計画
 - ①エビデンスに基づく広域医療・福祉計画
 - ②子育てと就労構造からみた生活・住居・保育環境
 - ③高齢者の地域居住の継続可能性

建築環境研究室

- 教授：郡 公子，建築設備学，建築環境工学
 - ①建築熱環境デザインのための建築性能
 - ②空調システム性能評価
- 教授：横尾 昇剛，建築環境工学，都市環境工学
 - ①都市・建築物の環境性能評価，ヒートアイランド
 - ②省エネルギー化
 - ③エコロジカルフットプリント分析
- 助教：糸井川 高穂，建築設備学，建築環境工学
 - ①健康で快適な建築環境の構築
- 助教：藤原 紀沙，建築環境工学・環境建築
 - ①立地特性に対応した建築デザインと環境性能
 - ②エリア内外のエネルギー・資源の活用方

建築材料研究室

- 教授：杉山 央，建築材料
 - ①材料・部材の品質向上のための合理的な生産手法
 - ②セメントの水和反応シミュレーション，コンクリートの材料特性予測
 - ③コンクリート製造過程のトレーサビリティ確保技術
- 准教授：藤本 郷史，建築材料・施工
 - ①建築材料のフロー・ストック・環境負荷の分析
 - ②建築部材の劣化機構の分析・劣化検知
 - ③建築物の解体工事における労働安全
 - ④建築物の履歴情報マネジメント

建築再生安全研究室

- 教授：中島 史郎，木構造
 - ①建築における資源循環と再生
 - ②建築物の木造化による二酸化炭素排出抑制効果
 - ③木造建築物の物理的耐用年数の評価
 - ④木質構造材料の材料性能評価
- 准教授：古賀 誉章，建築計画学・環境心理学
 - ①安全・安心・快適・その先の満足
 - ②使う人の気持ちに寄り添った生活環境づくり
 - ③人の意見を聞きとりまとめる方法
- 助教：大嶽 陽徳，建築意匠・建築設計
 - ① 建築家の設計論に関する研究
 - ② 時間のなかの建築表現に関する研究
 - ③ 近現代のローカルアーキテクトに関する研究

技術職員

- 佐藤 豊 技術専門職員（建築環境研究室）
- 野俣 善則 技術専門職員（建築構造研究室）
- 金子 和人 技術専門職員（建築材料，再生安全研究室）
- 本庄 宏行 技術専門職員（建築計画，再生安全研究室）

2-4. 研究室活動の軌跡：建築構造研究室

2008 年度 日本建築学会大会（中国）で学生 5 名が発表（9 月），**中野達也助教**：日本鋼構造協会 鋼構造シンポジウム優秀発表賞（11 月），**土屋智之（M2）**：日本建築学会関東支部 若手優秀研究報告賞（3 月），学士 9 名・修士 6 名（3 月）

2009 年度 **増田浩志准教授**：教授に昇任（4 月），日本建築学会大会（東北）で学生 12 名が発表（8 月），**高木峻一（M1）**：日本鋼構造協会 鋼構造シンポジウム優秀発表賞（11 月），学士 9 名・修士 3 名・博士 1 名（**渡辺亨**：紡錘型履歴性状を示すアンカーボルト降伏型露出柱脚の力学性状に関する研究）（3 月）

2010 年度 **入江康隆准教授**：国土交通大臣賞（7 月），日本建築学会大会（北陸）で学生 12 名が発表（9 月），学士 8 名・修士 5 名（3 月）

2011 年度 **齋藤良太（M1）**：日本建築学会 優秀卒業論文賞（8 月），日本建築学会大会（関東）で学生 10 名が発表（8 月），**中野達也助教**：学内 萌芽研究特別奨励賞（10 月），**佐藤由悟（OB）**，**中野達也助教**，**増田浩志教授**：日本鋼構造協会 論文賞（11 月），学士 9 名・修士 5 名・博士 1 名（**佐久間順三**：既存木造住宅耐震補強の費用対効果の試算）（3 月）

2012 年度 日本建築学会大会（東海）で学生 8 名が発表（9 月），学士 8 名・修士 3 名（3 月）

2013 年度 **入江康隆准教授**：教授に昇任（4 月），**中野達也助教**：准教授に昇任（6 月），日本建築学会大会（北海道）で学生 7 名が発表（8 月），博士 1 名（**尾内俊夫**：枠組壁工法住宅における釘接合部の履歴特性を用いた構造部位および建物全体の荷重変位履歴の予測手法）（9 月），**工藤慈野（M1）**：日本鋼構造協会 鋼構造シンポジウム優秀発表賞（11 月），**実験室**：2 軸静的載荷自動制御システムと載荷フレームを導入（3 月），学士 6 名・修士 2 名（3 月），**入江康隆教授**：定年退官（3 月）

2014 年度 **中島昌一助教**：着任（4 月），日本建築学会大会（近畿）で学生 11 名が発表（9 月），**宗川陽祐（D1）**：日本建築学会大会材料施工部門 若手優秀発表賞（11 月），**工藤慈野（M2）**：日本建築学会関東支部研究発表会 若手優秀研究報告賞（3 月），学士 9 名・修士 4 名（3 月）

2015 年度 日本建築学会大会（関東）で学生 18 名が発表（9 月），**中野達也准教授**，**長谷川隆**，**長嶺賢吾（OB）**：日本鋼構造協会 論文賞（11 月），**倉成真也（M2）**：日本

建築学会関東支部研究発表会 若手優秀研究報告賞（3 月），**伊藤駿（M1）**：日本建築学会関東支部研究発表会 優秀研究報告集掲載（3 月），**小林宏輝（B4）**：日本建築学会関東支部研究発表会 優秀研究報告集掲載（3 月），学士 8 名・修士 2 名（3 月）

2016 年度 全教職員：地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科へ異動（4 月），日本建築学会大会（九州）で学生 13 名が発表（8 月），**小林宏輝（M1）**：日本鋼構造協会 鋼構造シンポジウム優秀発表賞（11 月），学士 7 名・修士 5 名・博士 1 名（**丸山純夫**：地域材による木造住宅の開発とその耐震性能—「とちぎの木の家」を事例として—）（3 月）

2017 年度 日本建築学会大会（中国）で学生 14 名が発表（8 月），**実験室**：3 次元座標計測システムを導入（3 月），学士 7 名・修士 5 名・博士 1 名（**宗川陽祐**：25 度狭開先口ボット溶接を適用した角形鋼管柱端接合部の破壊評価に関する研究）（3 月），**中島昌一助教**：建築研究所へ転出（3 月）



2017 年度 構造研 OB 会



2016 年度 夏キャンプ

2016 年度 冬旅行



2016 年度 2 方向載荷実験

2017 年度 AIJ 大会@広島

2-4. 研究室活動の軌跡：建築計画研究室

建築計画研究室は、2017年3月に三橋伸夫先生が退官され（現、名誉教授）、計画分野：佐藤准教授、意匠分野：安森准教授、技術職員：本庄技官の3名で構成されている（2017年度）。また2007年3月に退官された藤本信義名誉教授は、2017年8月にご逝去された。

計画分野は、都市・農村計画、建築計画、設計と、多様な地域課題の分野横断的解決手法や制度設計、または建物の改修など、地域と密接に関わりながら展開している。意匠分野は、建築・都市の空間構成論の研究と、家具・建築・公共空間の設計を相互にフィードバックしながら、地域のフィールドや人々と共に展開している。

計画分野で取り組んでいるテーマは、医療・福祉（介護、保育、障害等）の広域計画に関する研究、諸施設の設計基準・整備手法に関する研究、地域の持続可能性に関する研究、防災・減災計画（復興支援計画）が主である。国、都道府県、市区町村と連携して課題解決に取り組むことが多く、学生自身が実際の事業計画や整備計画を立案することも多い。近年では、東日本大震災の災害支援から計画支援、復興計画策定までや、都市の形成過程を不動産登記情報から分析し将来的な都市動向を検討した上で現状の都市制度の評価を行う、また公営住宅のリノベーションに際し、ニーズ把握から実態調査、モデルプラン作成、基本設計までを担当し、実施図面の精査を行った上で2018年度には着工する、といった、理論的調査研究から実学的な設計やまちづくりまでの一連のプロセスを研究室として進めている。

意匠分野で取り組んでいるテーマは大きく3つあり、①「大谷石等の地域産業と建築」では、石蔵と町並みの調査とともに、大谷石の休憩所をセルフビルドし、近年は、宮染めや益子焼などのものづくりの空間の研究にも発展している。②「大学キャンパス等のコモンスペース」では、キャンパスの公開性や建物の共用空間について研究し、8号館改修などの校舎設計や、近年はオフィス空間のコモンスペースの設計に展開している。③「地方都市中心市街地の空地・空間資源」では、都市の空地（ヴォイド）の調査研究を中心に、釜川沿いに都市の居場所のデザインを続け、近年は、商店街のオープンカフェや、空き家改修（みんなのリビング）も進行中である。ヴァナキュラー（地域性）でアノニマス（匿名性）な建築や都市の特徴を、タイポロジー（類型学）的手法で明らか

にしつつ、従来の空間主体のアプローチに、人々のアクティビティや、物や素材の集合を重ねることで、建築と都市の文化性を含めて空間を捉え実践している。

計画 HP：<https://www.facebook.com/plan5.archi/>

意匠 HP：<http://yasumori-lab.jp>



2017年4月：三橋先生の退官パーティー



2016年11月：まちなか再生プロジェクトの企画・運営



2012年2月：震災がれき大谷石の再利用による休憩所

2-4. 研究室活動の軌跡：建築環境研究室

Lab's snapshots 《建築環境研究室》

● 学会発表・成果発表

建築学会や空衛学会での大会発表や成果発表の機会をチャンスに、自らのスキルを伸ばしています。



UUゼミ 2016



宇都宮市まちづくり提案



日本建築学会大会発表 2016



企業研究発表会 2015



再開発のためのWS



日本建築学会大会発表 2016

● 研究室配属歓迎会

3月上旬に配属される新4年生たちを研究生たちがお花見を企画したりして歓迎します！



環境研究室歓迎会 その①



環境研究室歓迎会 その②



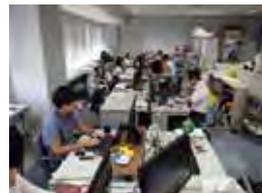
10号館前の広場でお花見

● 研究室の日常

環境研究室のふだん。



温熱感の実験中。



いつもの研究室風景 その①



いつもの研究室風景 その②

● その他のイベント

研究生生活以外でも仲が良く、自主的にさまざまなイベントを季節毎に行っています！



みんなでたこ焼きパーティ！



学会発表後の旅行



夏合宿（奥日光）



寒い日は鍋に限りです！



現地調査のためのハイキング



修士論文発表会打ち上げ

2-4. 研究室活動の軌跡：建築材料研究室

2008年度 (3月) 学部 11 名卒業, 大学院博士前期 4 名 (井坂幸俊, 柿沼智幸, 保坂網鎮, 渡邊貴明), 博士後期 2 名 (田中斉, 西村眞二) 修了, 小西敏正教授が定年退官。

2009年度 (8月) 日本建築学会大会 (東北) で 9 名発表. (9月) 保坂網鎮君が日本建築学会優秀修士論文賞を受賞. (3月) 学部 13 名卒業, 大学院博士前期 6 名 (一山くるみ, 鎌田亮太, 神部直也, 佐藤佳広, 田熊亮司, 松沢友弘), 博士後期 3 名 (吉岡昌洋, 川西泰一郎, 長塩靖祐) 修了, 中村成春准教授が大阪工業大学に転出。

2010年度 (4月) 杉山央教授が建築研究所より着任. (9月) 日本建築学会大会 (北陸) で 5 名発表. (3月) 学部 13 名卒業, 大学院博士前期 3 名 (熊谷瑤子, 園部真理菜, 根本裕規), 博士後期 1 名 (西村進) 修了。

2011年度 (7月) コンクリート工学年次大会 2011 (大阪) で 1 名発表. (8月) 日本建築学会大会 (関東) で 12 名が発表. (3月) 学部 11 名卒業, 大学院博士前期 4 名 (王嬌, 高山浩平, 武田幸恵, 劉遠博), 博士後期 3 名 (唐沢智之, 石東昇, 高橋祐一) 修了。

2012年度 (7月) コンクリート工学年次大会 2012 (広島) で 3 名発表. (9月) 日本建築学会大会 (東海) において 12 名発表. (3月) 研究室旅行 (川越, 水上温泉), 学部 10 名卒業, 大学院博士前期 9 名 (黒田満, 泉田裕介, 峯竜一郎, 森本悠, 李曉赫, 財津拓三, 松林誠, 宮澤康太, 山田修平), 博士後期 7 名 (起橋孝徳, 大野吉昭, 掛川勝, 斉藤栄, 小泉信一, 福田杉夫, 笹倉博行) 修了, 榎田佳寛教授が定年退官。

2013年度 (4月) 藤本郷史講師が広島大学より着任. (8月) 日本建築学会大会 (北海道) で 6 名発表. (3月) 研究室旅行 (草津でスキー, 温泉), 学部 7 名卒業, 大学院博士前期 2 名 (小野克也, 中村翠) 修了。

2014年度 (9月) 日本建築学会大会 (近畿) で 5 名発表. (1月) 藤本郷史講師が准教授に昇任. (3月) 研究室旅行 (裏磐梯でワカサギ釣り, スキー, 温泉), 学部 8 名卒業, 大学院博士前期 3 名 (SUSAN, 水戸健介, 宮澤友基) 修了。

2015年度 (9月) 日本建築学会大会 (関東) で 6 名発表, 李曉赫君が若手優秀発表賞を受賞. (3月) 研究室旅行 (那須で乗馬, 陶芸, 温泉), 学部 6 名卒業,

大学院博士前期 1 名 (佐山諒), 博士後期 2 名 (財津拓三, 李曉赫) 修了。

2016年度 (7月) 上村克郎元教授の米寿, 榎田佳寛名誉教授の古希, 橘高義典元准教授の還暦を祝う会 (東京八重洲). (8月) 日本建築学会大会 (九州) で 5 名発表. (3月) 研究室旅行 (富岡製糸場, スイーツ作り, 伊香保温泉), 学部 6 名卒業, 大学院博士前期 2 名 (飯島玲, 河村千秋), 博士後期 2 名 (石川伸介, 田沼毅彦) 修了。

2017年度 (5月) 杉山央教授が日本建築学会賞 (論文) を受賞. (7月) コンクリート工学年次大会 2017 (仙台) で 1 名発表. (8月) 日本建築学会大会 (中国) で 4 名発表, 溝口真史君と直井聡人君が若手優秀発表賞を受賞. (10月) 杉山央教授の日本建築学会賞受賞をお祝いする会 (学生会館), ゼミ合宿 (日光自然ふれあいハウス). (3月) 学部 5 名卒業, 大学院博士前期 1 名 (溝口真史) 修了。



賀寿の会 (2016年7月2日)



建築学会賞受賞をお祝いする会 (2017年10月7日)

2-4. 研究室活動の軌跡：建築再生安全研究室

● 研究室紹介

建築再生安全研究室は、地域デザイン科学部創設に合わせて、2015年度から準備し、2016年度に設置された新しい研究室です。この研究室では、環境問題への懸念や国内人口の高齢化などを背景として関心が高まっている、建築の再生や安全といったテーマに関して、建築材料、建築構造、建築計画、環境工学、建築意匠などのさまざまな観点から研究を進めています。

例えば、建築物の分別解体と解体材の再資源化に関する研究、新しい木質材料・構造に関する研究、高齢者やこどもの視点からみた生活環境全般の評価と改善に関する研究、空間や環境の認知に関する研究、および時間経過のなかでの建築意匠に関する研究などを行っています。

● 研究テーマ

[新しい木質材料・構造に関する研究]

- ・ CLTの座屈性状に関する力学的な分析に関する研究
- ・ 木質構造材料のクリープ破壊現象のモデル化に関する研究
- ・ 積層型製材パネルの力学的な性状に関する研究
- ・ CLTパネル工法の陸屋根構面の脱気に関する研究
- ・ 温湿度変動下における CLT の変形挙動の解明に関する研究

[高齢者やこどもの視点からみた生活環境全般の評価と改善に関する研究に関する研究]

- ・ 高齢者施設の計画論
- ・ 福祉主導型コミュニティ
- ・ こども施設の計画論

[空間や環境の認知に関する研究]

- ・ 空間の明るさ感の指標化
- ・ 極小空間・茶室空間の環境的有用性
- ・ 生体リズムと効率的休息
- ・ 移動の安全性と利便性

[建築家の創作活動に関する研究]

- ・ 都市の訪問記にみられる建築家の都市認識
- ・ 近年のまちづくりの事例からみた建築家の社会的役割
- ・ 近代のローカルアーキテクトの図面資料に関する研究

● 研究室の一年間の主な活動

[4月；歓迎会]



[4月～6月；卒業設計／学部4年生]



[7月；ゼミ合宿]



[8月～2月；研究論文]



[3月；卒業式]



3. 学科改組について



地域デザイン科学部と建築都市デザイン学科の設置経緯

宇都宮大学 名誉教授 三橋 伸夫

1. 全学的な大学改革の実施

工学部建設学科建築学コース（以下、旧コース）が地域デザイン科学部（以下、新学部）建築都市デザイン学科（以下、新学科）に改組されたのは、宇都宮大学における全学部再編が絡んでおり、先ずそれから述べる。2004年度の国立大学法人化以降、国立大学の運営交付金は毎年1%ずつ削減され、大学教員職員数の削減、さらには複数大学の統合などが進展しつつあった。そのような状況で、新たな社会のニーズに応えた国立大学の教育組織の組み換えが文部科学省によって強力に推し進められたことが背景にある。

国立大学法人の教育研究活動の生命線である運営交付金に大学改革の成果が大きく影響を与えるようになった状況の下、宇都宮大学では文部科学省の働きかけに呼応して、全学的に学部・大学院の再編成について本格的な議論が始まった。議論は当初、工学研究科と農学研究科との工農連携（応用化学・生命科学等）を軸に進められたが、関係者間の折り合いがつかなかった。紆余曲折の末、進村学長（当時）が提案した国際・教育系ソフト（文系）分野と建設ハード（理系）分野との文理融合が新たに浮上して理事の合意が図られ、全学部に絡む学生定員の移設と新学部創設に大きく舵が切られたと聞く。当然、一方的に学生定員が減る国際学部、農学部の反発は大きかったが、全学部が絡む大学改革という論理が押し切った。

国際学部から10名（純減）、教育学部から50名（移設）、農学部から10名（純減）および工学部から70名（建設学科分移設）の計140名の学生定員が新学部に移った。これを3学科に割り振ったのである。旧コース35名は新学科50名に定員増となった。

2. 議論のスタートは「エリアデザイン教育研究センター」（2012～2013年度）

さて、新学科の内容がどのように変わったのかに話題を移す。説明のためには時間を少しさかのぼる。事の起りは旧コース教員で組織する「建築教育プログラム検討委員会」での議論である。当委員会は、旧コースがJABEE（日本技術者教育認定機構）認証を取得するために立ち上げたもので、5年間の認証期間（2006年度～）を終えて認証そのものは更新しなかったが、引き続き旧コースの建築教育のあり方を議論する場として存続していた。『エリアデザイン教育研究センター』というセンター構想がこの委員会での議論から生まれた。

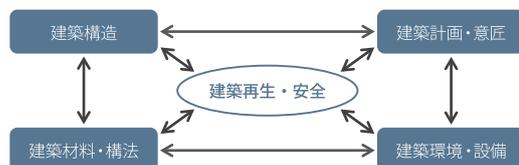
当該センター構想では、宇都宮大学の大学院4研究科の横断的な連携により設置し、地域の強みを活かした産

学官連携による地域イノベーション創出をめざすものである。そのポイントは、①エリアデザインを担う「学」の再編と拠点形成、②持続可能な社会の実現に向けた知の連携、③自治体に対するデザイン・ソリューションの提示、④アジアの建築・地域問題への貢献（グローバル人材教育）、⑤震災以降の地域再生（被災県としての教育研究）、⑥将来構想としての全学横断的な研究科構築、などかなり欲張った項目を掲げた。この構想を工学研究科長、理事を通じて進村武男学長へ提出したのである。振り返れば、この構想の中に新学部、新学科に向けた改革の視点が芽生えていた。先の学長による文理融合案に影響を与えたと思っている。なお、新学部附属の地域デザインセンター（2015年4月設置）にも趣旨の一部は受け継がれている。

3. 「建築都市デザイン学科」へのフォーカス（2014.6～2014.9）

新学科について議論が始まったのはおおむね2014年度からである。この頃になると新学部の骨格、すなわち、コミュニティデザイン学科、建築都市デザイン学科および社会基盤デザイン学科の3学科から新学部が構成されること、各学科14名の教員を配置できること等が固まってきた。新学科として、どのような構想をもって設置申請書を作成するか議論が進められた。

旧コースにおける教育研究を担う4研究室（1978年創設以来不変）の構成に手を加えるのは混乱が大きいと、新たに1研究室を立ち上げる方向で検討が進んだ。当初は、防災・エリアデザイン部門をそれに据えたが、社会基盤デザイン学科で同様に防災・海外プロジェクト部門を充実させる方向性が明らかとなったため、「建築再生」、「建築安全」というキーワードを掲げて設置申請書に向けた構想を固めていった（図参照）。これに基づき、2014年度における新学科の教員人事案件として、建築再生分野で教授および助教、建築安全分野で准教授を公募することで調整が行われた。その後の選考の結果、教授として建築研究所より中島史郎先生、准教授として東京大学より古賀誉章先生、助教として東京工業大学より大嶽陽徳先生の3氏をお迎えでき、2015年4月から順次着任された。



（図）建築学の5つの教育研究分野

4. 文部科学省大学設置・学校法人審議会への書類提出 (2014.10～2016.3)

(1) 新学部の教育方針・方法

新学部の特色は、文理融合の学科構成であり、地域の持続的な発展に関する教育研究、地域貢献を推進し、豊かな生活の実現に貢献することにある。そのため、まちづくりを支える専門職業人の養成を教育目的に掲げ、地域の課題解決に向けて実践的に行動できる能力の修得を目標として、新学部共通の教育プログラムによって「地域対応力」を養成することとした。

3学科共通で1年生から取り組む「地域デザイン訪問」、「地域デザイン学序論」、「地域の姿と課題」をはじめとして、3年生ではフィールドワークで課題解決に1年かけて取り組む「地域プロジェクト演習」などが新たに設けられた。新学部では専門科目を全てアクティブ・ラーニング科目として実施する計画である。アクティブ・ラーニングとは、一方通行型の講義形式ではなく、講義であっても討論や演習など学生の能動的な学びの要素を取り入れるもので、学びの深化やコミュニケーション能力など実践的な応用力を高めることをねらいとしている。これを全学に先駆けて取り組もうとしている。

(2) 新学科の教育方針・カリキュラム

新学科の建築教育は骨格としては旧コースのそれと大きく変わってはいない。しかしそれでは文部科学省（設置審）から追及される。変わることを強調しなければならない。そこで、理念的ではあるが、『急速に進む少子高齢化、衰退する地域社会とそれに伴うコミュニティ機能の後退、自然環境の大きな変化と自然災害の大規模化などを背景に、建築学コースでは、①少子高齢社会の人口減少期への対応、②環境エネルギー問題への対応、③防災・減災にもとづく安全・安心社会形成への対応、の3点を大きな課題としてとらえている。それに対応すべく、都市・地域空間の物的環境のデザインのみならず、社会環境のデザインをも視野に入れた統合的な教育、研究を進めていく必要があると考え、このための新たな体制づくりが急務である』（設置審申請書類）とした。

これに対応し、育成する人材像として『従来の建築レベルからの発想に加え、また、物的環境からの発想

に加えて、社会を構成する多主体（住民、企業、行政等）とその関係など社会環境にも着目し、広く都市・地域空間の視野から、物的環境と社会環境の対応関係を分析し、それらを統合的にとらえて諸課題を解決する発想と手法を身に付けた人材を育成する』（同上）とした。具体的には、建築学分野における自然科学的・工学的側面となる数学、物理学等を主とする基礎科目と構造学、材料学、構法学、環境工学、設備工学などの専門科目、人文・社会科学的側面での社会学、心理学、経済学、歴史学などの基礎科目と計画学、意匠学、建築史学などの専門科目、そして、多主体間のコミュニケーションで成り立つ建築行為のための語学、デザイン学、設計学に加えて、新たな社会的課題を背景にした、再生学（持続的環境構築論）、安全学（防災論）、さらには地域デザインの基礎となる統計学、パートナーシップ論、まちづくり論などを新たに設け、総合的に身に付けさせるべくカリキュラムを編成した。新たな専門科目としては、建築再生・安全の分野では、「建築コンバージョン論」、「バリアフリー建築論」、「建築リサイクル学」、「高齢者防災論」などが開講予定である。また、「社会調査法」、「GIS演習」など学部共通の専門科目もある。

5. 新学科における教育研究のこれから

教育研究体制の改革は、学んだ学生が社会に出て一定期間の活動を経ないとその成否は明らかにならない。成果が表れるのはおおむね10数年先になろう。また、新学科はこれで完成した訳ではなく、引き続き新たな改革が始まると考えるべきである。特に、国際学部、農学部からは大きな負託を受けた。30周年記念誌（2007年12月刊）において、2000年頃から始まった旧コースにおける教育改革の取組を報告したが、新学科の誕生は、こうした継続的な取組があって初めて実現できたのだと思う。私は定年で離れることとなったが、現教職員の方々はこのことを肝に銘じ、新学科の学生たちと向き合って常に新たな社会的なニーズをふまえた教育研究に取り組んでほしいと願う。

